

「情報活用能力調査」の実施概要について

1. 調査の目的

小・中学校における児童生徒の情報活用能力の実現状況について、情報通信技術を活用した調査を実施し、把握、分析するとともに、児童生徒の情報活用能力育成のための指導の改善、充実に資する。

2. 調査の名称、実施主体

「情報活用能力調査」の名称により、文部科学省及び文部科学省が委託した民間団体において実施する。

3. 調査対象、調査内容及び実施時期等

(1) 調査対象

- ①国・公・私立小学校の第5学年の児童
- ②国・公・私立中学校及び中等教育学校の第2学年の生徒
(小・中学校それぞれ全国から110校3,300人規模を抽出)

(2) 調査内容

情報活用能力を構成する次の3つの観点から出題する。

- ①情報活用の実践力、
- ②情報の科学的な理解、
- ③情報社会に参画する態度

なお、調査問題の範囲は、小・中学校ともに調査実施学年までに、各教科、道徳、外国語活動(小学校のみ)、総合的な学習の時間、特別活動で実施することが想定される学習活動とする。

このほか、児童生徒に対する意識調査、教師及び学校に対する質問紙調査を実施する。

(3) 調査実施時期

平成25年10月～平成26年1月

(具体的な実施日については、学校と調整の上、決定。)

4. 調査の形式

- 出題に当たっては、コンピュータを使って問題を出題し、コンピュータにより解答する手法を基本とする。
- 調査は、連続する2単位時間(小学校：45分×2コマ、中学校：50分×2コマ)で実施する。児童生徒が意識調査に回答する時間もこの時間に含まれている。
- 調査実施当日は、文部科学省から委託を受けた民間団体の職員が調査に必要な機器の搬入、設置、回収、調査の運営等を行う。
- 抽出は、学校を無作為に抽出し、さらに同校の1学級を無作為抽出する層化2段無作為抽出により調査対象校及び対象学級1学級を決定する。
- 調査結果を公表し、教育委員会及び学校に情報提供を行う。

情報教育の推進等に関する調査研究

平成25年度予算額 37百万円

背景

- 情報社会を生き抜くための情報活用能力の育成が不可欠となっていることが国際的な共通認識
- 我が国においては、新学習指導要領の下、小・中・高校段階を通じて情報活用能力の育成を図っているが、児童生徒の情報活用能力の実態把握は未実施

事業の概要

【児童生徒の情報活用能力に関する調査の開発・実施】

- ① 児童生徒の情報活用能力(情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度)の実現状況に関する調査をコンピュータを使って実施。
- ② ICTを活用した学習状況に関する児童生徒意識調査、教師及び学校に対する質問紙調査を実施。
- ③ 国・公・私立小学校第5学年及び中学校第2学年の児童生徒を対象。調査は連続する2単位時間(小学校45分×2、中学校50分×2)で実施。

児童生徒の情報活用能力の実現状況及び課題に関する情報を収集

スケジュール

<平成24年度>

- 調査の実施方法の検討
- 調査問題の開発、予備調査の実施

<平成25年度>

- 調査の実施(平成25年10月～26年1月)
 - 小学校 第5学年(100校、3000人規模)
 - 中学校 第2学年(100校、3000人規模)(無作為に抽出された1学校の1学級で実施)

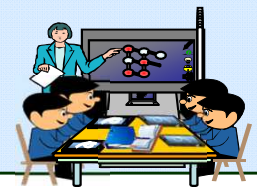
<平成26年度>

- 調査結果の公表
- 指導資料の作成・配布
調査問題の解説、指導事例等をまとめた指導資料を作成し、教育委員会や学校現場へ配布

成果の活用

【学校・教委】
【文部科学省】

- 各学校における情報活用能力に関する学習指導の改善
- 調査結果を踏まえ、情報活用能力の内容の見直し
- 情報活用能力育成に関する教育課程の検討のための基礎データとして活用



情報活用能力について

児童生徒の情報活用能力の育成については、平成9年10月の協力者会議報告(※1)では、情報教育の目標の3観点（情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度）を整理し、これらをバランスよく育成することを重視。また、平成18年8月の検討会提言(※2)では、8分類（8要素（下欄「■」））について定義。

※1:情報化の進展に対応した初等中等教育における情報教育の推進等に関する調査研究協力者会議 ※2:初等中等教育における教育の情報化に関する検討会

「教育の情報化に関する手引」より

A 情報活用の実践力

課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力

- 課題や目的に応じた情報手段の適切な活用
- 必要な情報の主体的な収集・判断・表現・処理・創造
- 受け手の状況などを踏まえた発信・伝達

B 情報の科学的な理解

情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解と、情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解

- 情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解
- 情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解

C 情報社会に参画する態度

社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報に対する責任について考え、望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度

- 社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響の理解
- 情報モラルの必要性や情報に対する責任
- 望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度